

アマモすくすくプロジェクト ～アマモ育成編～

深江ブループロジェクト活動組織は、深江小学校と大野木場小学校の児童や長崎大学の学生と一緒にアマモの種を植え付ける活動を行いました。

はじめに、アマモの成長を身近なところで観察できる、「アマモカップ」を作りました。透明なプラスチックのカップに海の砂と海水を入れ、アマモの種を5粒程度入れます。それを2月頃まで教室で直射日光が当たらない場所で保管し、アマモが成長する様子を観察します。アマモが成長したら、活動組織の漁業者の方へ渡し、海へ移植します。

深江小学校



アマモカップに砂を入れる



アマモの種を入れる



アマモカップ

大野木場小学校



アマモカップに砂を入れる



アマモの種を入れる



アマモカップの作成様子

次に、アマモの種を直接海へ投入するために、紙粘土でアマモ団子を作りました。
アマモ団子の形は、児童がそれぞれ考え、かわいらしいものや、おいしそうなお食べ物、図鑑を見ながら本物そっくりの海の生物を作っていました。

深江小学校



アマモ団子の作成様子



アマモ団子の作成様子



児童が作成したアマモ団子

大野木場小学校



アマモ団子の作成様子



アマモ団子の作成様子



児童が作成したアマモ団子

次に、深江漁港近くのアマモ場がある海岸へ行き、アマモ団子を投げ入れました。また、アマモ場の近くにどんな生物が生息しているか網で捕まえ観察しました。

深江小学校



干潮のため、海岸から投げ込む児童



アマモ場に投げ込む児童



アマモ場近くで捕まえた生物

大野木場小学校



満潮のため船から投げ入れる児童



アマモ場に投げ込む児童



参加した大野木場小学校の児童

最後に、長崎大学の学生から小学生に対して、「いろいろな生物が生息している豊かな海が近くにあることは、とても凄いことです。海を守る活動を続けていくことは、とても大切なことです。今回だけでなく、今後も続けていけたら良いですね。私たちも、海の環境保全活動を頑張ります。」と話がありました。